

透析中の諸症状 五苓散など使用

Q 五十歳、男性。七年前から腎不全（じんふぜん）になり、昨年から血液透析を週三回受けています。透析の後、頭痛やめまいが起り、貧血や皮膚のかゆみに悩まされています。これらの症状にも漢方薬は有効ですか。野菜と同じでカリウムが上昇することはありますか。また水分制限しなければなりませんが大丈夫でしょうか。

A 透析中の諸症状にも漢方薬は使われている。透析を始めたところに特に起りやすいのは頭痛や吐き気、ふらつきなどの症状だ。こうした「不均衡症候群」には五苓散（ごれいさん）が使われる。質問者は透析中に「しばしば足がひきつれて、じっとしてられないほど下肢の苦痛がある」と訴えている。筋肉の引きつれには

芍薬甘草湯（しゃくやくかんそうとう）がよく効く。下肢の苦痛は透析中によくみられる症状で、漢方では九味檳榔湯（くみびんろうとう）や黄連解毒湯（おうれんげどくとう）が用いられている。

皮膚のかゆみには当帰飲子（とうきいんし）などが、貧血には十全大補湯（じゅうぜんたいほうとう）などが使われる。

漢方薬に含まれるカリウムの量は非常に少ないため、カリウムをはじめとする電解質のバランスについては問題ない。ただ、排泄（はいせつ）障害があるため、十分に注意することが必要である。水分制限についてはエキス剤やカプセル製剤も出ているので、少量の水分でも服用することは可能である。